

三焦鍼法の価値は疾患の改善だけでよいのか？

治療効果は、「症状の改善」、「検査結果の改善」、「日常生活機能の回復」によって評価します。しかし、疾患ごとにその評価基準は異なります。

例えば、認知症では MMSE、うつ病では PHQ-9、身体機能では ADL（日常生活動作）その他、血液検査や画像検査などそれぞれ異なる指標が用いられています。

ところが、三焦鍼法の臨床効果はあまりにも幅広い領域に及ぶため、疾患ごとの評価基準だけではその本質を十分に捉えることができない、と考えるようになりました。

三焦鍼法の基本理念は「益気調血・扶本培元」

三焦鍼法が目指しているのは、単に病名や症状に働きかけることだけではありません。むしろ、「生命機能そのものを回復させること」にあると考えられます。私たちが見るべき指標は、「その人の生命力がどれだけ回復したか」ではないでしょうか。

例えば、

- よく眠れるようになった
- 食事がおいしく食べられるようになった
- 自分で動けるようになった
- 考えたり会話したりする力が戻ってきた
- 前向きに生きようとする気持ちが湧いてきた

三焦鍼法が真に働きかけているのは、このような生命活動の根幹部分です。病気の改善はもちろん重要ですが、それは生命力の回復によってもたらされる結果の一つとも考えられます。私たちは、その新しい評価軸を「生命力(Vital Function)の回復」という観点から探求していきたいと考えます。

Sanjiao-Vital Function Score（三焦-VFS）の提唱

生命機能の状態と変化を評価する新たな指標として、Sanjiao-Vital Function Score

（S-VFS；三焦鍼法の生命機能スコア）を提唱します。S-VFS は、疾患の改善度を測るための尺度ではありません。人が本来持つ生命力や回復力、適応力といった生命機能を可視化し、その変化を客観的に評価するための評価体系です。生命機能の回復を定量的に捉えるとともに、将来的には鍼灸医学全体で共有できる普遍的な評価基盤となることを目指しています。

SPACE 概念モデルの投入

生命機能を構成する 5 つの基本領域を SPACE と定義し、人が健康に生きるための基盤となる生命機能を表します。

- S：Sleep（睡眠）

- P : Physical Activity (身体活動)
- A : Appetite (食欲・栄養)
- C : Cognition & Communication (認知・交流)
- E : Emotion & Motivation (感情・意欲)